

3密を避け，授業の遅れを取り戻しながら 「主体的・対話的で深い学び」へ向かう工夫

♪音楽



歌や器楽の活動が制限されているけれど，どうやって授業を進めればよいのだろう。

中学校教材『浜辺の歌』での授業場面を例として
題材名：「曲想を感じ取り，形式を生かしてふさわしい表現を工夫しよう」

第1時 「浜辺の歌」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。

○「浜辺の歌」の範唱を聴いて，印象などをワークシート記入する。

☆教科書会社のホームページに掲載されている学習支援コンテンツ(音源)などを活用し，家庭学習の一環とすることも可能。



第2時 「浜辺の歌」の音楽を形作っている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じて，知覚したことと感受したことの関わりについて考える。

○「浜辺の歌」を口ずさんだり，CDを聴いたりして，リズム(拍子)や速度，旋律(音のつながりやフレーズ)，強弱など，捉えた音楽の特徴をワークシートに記入する。

☆ 旋律を頭の中で歌ったりハミングしたりする。
☆ 楽譜に記された音符を音の高さに合わせて線で結び視覚化する。
☆ 歌詞の内容や歌詞に込められた思いをワークシートに書きとめる。



第3時 「浜辺の歌」で自分が捉えた特徴をもとに，曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに，音楽表現を創意工夫する。

○聴き取ったこと(知覚)や感じたこと(感受)をもとに自分なりの音楽表現を追求する。

☆ あらかじめタブレット端末に音源や楽譜データを入れておき，タブレット上で音源を聴いたり，工夫を楽譜に書き込んだりして試行する。

○いろいろな演奏者の演奏を聴き比べ，表現の違いを感じとる。

☆インターネットで配信されている音源等も活用する。

○お互いの工夫を発表しあう。

☆ ホワイトボードを使い，小グループでお互いの情報を共有する。
☆ タブレット端末でワークシートを画面提示したり，授業者が読み上げ交流したりする。



第4時 創意工夫を生かして「浜辺の歌」を表現する。

○思いや意図をもって「浜辺の歌」を表現する。

☆ 曲想や諸記号をふまえた上で，歌唱や演奏を他の表現方法に置き換える。
【手拍子や膝打ち，足踏み，アルトリコーダーでの演奏，指揮による身体表現など】
☆ タブレットの録音機能を使い，それぞれが工夫した歌や演奏を録音し，発表する。



歌唱や器楽表現ができなければ何もできない…と思いがちですが，見方を変えてみましょう。歌唱や器楽表現への制限が解除されたときに，今までよりも豊かな表現ができるよう，今できる活動を考えてみるのもよいでしょう。今は，自分自身との対話や音楽との対話に焦点を当ててみましょう。